

いのうただたかきねんかん 伊能忠敬記念館だより No. 4

お知らせ

記念館では、特別展『伊能図の評価 評価される忠敬』展を

9月9日（火）から11月9日（日）まで開催します。

伊能忠敬は、江戸時代に実際に日本を測って

正確な地図を作った人ということは、皆さんも

知っていると思いますが、江戸時代にはあまり
利用されませんでした。今のように知られるよ

うになったのは、実は江戸時代の終わりから

明治時代にかけてだったのです。そのころ国を

守るために正確な日本全図が必要で、伊能図が

さかんに利用され、また忠敬が一生懸命にな

って作ったことが認められて、明治時代の教科

書に載るようになりました。また、それらの資料を戦争中なくなら

ないように伊能家の人がかまかま守ってきたおかげで、私

たちが伊能図や測量器具を見ることができるのです。



伊能忠敬墓碑

『クイズ忠敬』に挑戦しよう



(1) 忠敬は伊能家では何になったのでしょうか？

- ①当主 ②船頭 ③番頭

(2) 忠敬は伊能家の何代目でしょうか？

- ①1代目 ②10代目 ③15代目

(3) 奥さんとの旅行はどこへ行きましたか？

- ①神奈川大和 ②東京町田 ③仙台松島

(4) 旅行先では誰の句碑を写しましたか？

- ①松尾芭蕉 ②宮崎駿 ③押井守

(5) 関西旅行のとき一緒だった友人は誰？

- ①青木 某 ②久保木竹窓 ③平 忠義



松尾芭蕉句碑

伊能忠敬物語(3)

17歳で伊能家の第10代当主となった忠敬は、村のため家のため大変な努力をしました。例えば、24歳の時、佐原のお祭りについて騒動がありこれを鎮めたり、27歳の時には、江戸幕府が佐原の河岸(みなと)に新たな税金をかけるのに対して、町なかのまとめ役をこなしました。家の家業も順調に伸ばし、江戸に店を出したりもしました。また、33歳の時、妻(みち)と仙台松島まで旅行に行き、松尾芭蕉の句碑を書きとめています。忠敬は忙しい毎日の中でも勉強をしていたようで、佐原にいる頃から天文暦学に興味をいだき、本を買い求め独学で勉強していました。48歳の時、友人たちと関西方面に旅行したときには、緯度や方位などを測り始めていました。そしていよいよ家を長男景敬に譲り、江戸へ出発します。

伊能忠敬記念館だより No. 4 発行日 平成20年7月31日

発行者 伊能忠敬記念館

〒287-0003 香取市佐原イ1722-1 電話 0478-54-1118 FAX 0478-54-3649

クイズの答え (1)－①、(2)－②、(3)－③、(4)－①、(5)－②